

環境経営レポート

対象期間(2023年7月1日～2024年6月末日)

株式会社 愛康

発行日 2024年 11月 13日

訂正日 年 月 日

目 次

	ページ
目 次	1
1. 組織の概要	2
2. 対象範囲	2～3
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画	4～5
6. 環境経営計画に基づき実施した体制及び主な活動内容	5～8
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	9～10
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	10
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	11

1. 組織の概要

1)事業所名及び代表者氏名
株式会社 愛康
代表取締役 伊藤 碩康

2)所在地
本社＆工場 〒485-0051
愛知県小牧市下小針中島一丁目73番地

3)会社概要
・資本金 30百万円(2022年6月末現在)
・事業年度 7月1日～翌年6月 末日
・人員、規模等 25名 (2023年8月末現在)

	総務・管理	技術	工場1	工場2	工場3(仕上)	工場3(組立)	合 計
当 事 業 所 の 業 務 概 要	管理業務 全般	設計・開発 プログラム作成	船舶用エンジ ン部品加工	油圧マニホ ールド加工	加工品の 仕上・出荷	油圧装置 製造	—
従 業 員 数 (うちパート等)	5 名 —	4 名 —	4 名 —	5 名 —	5 名 —	2 名 —	25 名 (0 名)
延 べ 床 面 積							3,687 m ²

4)事業内容
油圧マニホールドブロック製造、油圧装置製造及び
船舶用エンジン向け燃料供給装置部品製造(機械加工)

5)環境管理責任者及び担当者連絡先
環境管理責任者 工場長 (代行推進: 環境推進リーダー)
担当連絡先 改革推進 EA21事務局
Tel 0568-42-0700 Fax 0568-42-0706
E-mail info@we-love-aico.jp

2. 対象範囲

1)取組の対象範囲
全組織・全活動を対象として取り組みます。

2)環境経営レポートの対象期間
・当年度の対象期間: 2023年7月～2024年6月

3)事業所名及び代表者氏名
株式会社 愛康
代表取締役 伊藤 碩康

4)所在地
本社＆工場 〒485-0051
愛知県小牧市下小針中島一丁目73番地

5)会社概要
・資本金 30百万円(2022年6月末現在)
・事業年度 7月1日～翌年6月 末日
・人員、規模等 25名 (2023年8月末現在)

	総務・管理	技術	工場1	工場2	工場3(仕上)	工場3(組立)	合 計
当 事 業 所 の 業 務 概 要	管理業務 全般	設計・開発 プログラム作成	船舶用エンジ ン部品加工	油圧マニホ ールド加工	加工品の 仕上・出荷	油圧装置 製造	—
従 業 員 数 (うちパート等)	5 名 —	4 名 —	4 名 —	5 名 —	5 名 —	2 名 —	25 名 (0 名)
延 べ 床 面 積							3,687 m ²

6)事業内容

油圧マニホールドブロック製造、油圧装置製造及び
船舶用エンジン向け燃料供給装置部品製造(機械加工)

7)環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 工場長 (代行推進: 環境推進リーダー)
担当連絡先 改革推進 EA21事務局
Tel 0568-42-0700 Fax 0568-42-0706
E-mail info@we-love-aico.jp

3. 環境経営方針

当社は、金属加工部品(油圧マニホールド、船舶用エンジン燃料供給装置部品)等の提供を通じ、
社会に貢献することを目指しています。

また良いものを【早く、安く、安定した品質】で提供することをモットーに環境に与える影響を配慮し、
環境保全を最重要課題として環境負荷の低減を当社の環境経営方針に掲げ、事業活動の中で
取組み、PDCAを回し継続的に改善を進めます。

1. エネルギー、水および化学物質使用量の低減対策に取り組むと共に、
二酸化炭素及び廃棄物排出量の削減に努めます。
2. 購入品を見直し、グリーン購入を推進します。
3. 環境に配慮した製作及び購入資材品等を製造工程で使用します。
4. 当社の事業活動に関連する環境法規を遵守します。
5. 環境活動方針を全従業員に周知徹底します。
6. 環境活動レポートを社内外に公表します。

2018年 7月 1日 宣言

株式会社 愛康

代表取締役 伊藤 碩康

4. 環境経営目標

環境方針に定めた事項につき、基準値を定め次のとおり中期目標及び年次別目標を設定し取組みます。

		単 位	基準値 2023年度 実績 (2023/7月～ 2024/6月)	年 次 目 標			備 考
				2024年度	2025年度	2026年度	
				(2024/7月～ 2025/6月)	(2025/7月～ 2026/6月)	(2026/7月～ 2027/6月)	
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	(削減率%)	—	0.3%	0.6%	0.9%	重点管理 目標
		kWh/百万円	1,861.2	1,855.6	1,850.0	1,844.4	
	ガソリン使用量の削減	(削減率%)	—	0.3%	0.6%	0.9%	
		ℓ/百万円	4.04	4.03	4.02	4.00	
	二酸化炭素排出量の削減	(削減率%)	—	(0.3%)	(0.6%)	(0.9%)	
		kg-co2/百万円	736.3	734.1	731.9	729.7	
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減 (コピー用紙)	(削減率%)	—	1%	2%	3%	実績把握 (廃棄量)
		購入枚数	44,000	43,560	43,120	42,680	
	産業廃棄物排出量の削減	(削減率%)	—	1%	2%	3%	重点管理 目標
		kg/百万円	71.7	71.0	70.3	69.5	
水使用量の削減		(削減率%)	—	0.5%	1.0%	1.5%	
		m³/百万円	1.353	1.346	1.339	1.333	
化学物質使用の適正管理		(削減率%)	—	1%	2%	3%	
		kg/百万円	1.45	1.44	1.42	1.41	
品質不良の削減		(削減率%)	—	1%	2%	3%	重点管理 目標
		個数/件数(参考)	146/66	139/63	131/59	124/56	
		損金千円/百万円	8.10	8.02	7.94	7.86	
グリーン購入率の向上		(向上率%)	—	3%向上	6%向上	9%向上	
		%	26.4%	27.2%	28.0%	28.8%	

注) 1. 二酸化炭素および廃棄物排出量は、売上高百万円当たりの原単位指標で管理します。

2. 電気使用量の二酸化炭素排出係数は、中部電力(株) 0.421kg-CO₂(2024年度調整後)を使用しています。

3. 化学物質、品質不良損失額、水使用量も、売上高百万円当たりの原単位指標で管理します。

5. 環境経営計画

環 境 目 標		取組内容 (達成手段)	実施 区分	実施部門 (責任者)
二酸化炭素排出量削減	電力使用量の削減	1. 照明:休憩時・不使用時消灯(全社)	継続	本社 ・生産管理 ・生産技術 (各G長) 工場1、2、3 (各G長)
		2. OA機器:不使用時省エネモード、電源OFF(全社)	継続	
		3. 不稼動機械の電源OFF(工場)	※ 継続	
		4. 空調機器温度設定と励行(夏季:28℃、冬季:18℃)(全社)	※ 継続	
		5. 空調機器フィルターの定期清掃(工場:月初/毎月、本社:6月、12月)	継続	
二酸化炭素排出量削減	ガソリン/軽油 使用量の削減	6. 不使用換気扇電源OFF(全社)	継続	本社 ・生産管理 ・生産技術 (各G長) 工場1、2、3 (各G長)
		7. 工場照明のLED化の維持管理	継続	
		8. 高効率圧縮機の優先稼働の実施	継続	
		9. 高効率圧縮機の供給圧低減(0.7⇒0.65Mpa)&エア-節約対策	※ 継続	
		10. 不具合による手直し、再製作のムダを削減	※ 継続	
二酸化炭素排出量削減	灯油使用量の削減	1. エコドライブ10ステッカーの配布・励行(運転者)	継続	社有車 (運転者)
		(・急発進・急加速の禁止・アイドリングストップ・空ふかしの禁止 ・タイヤ空気圧適正保持・不要な荷物・積載オーバーをしない)	継続	
		2. 運転日報(距離・給油)記録と燃費効率の管理(運転者)	継続	
		3. 遠方(100km以上)出張業務時の公共交通機関の活用	継続	
		4. 低燃費車への更新	中期	
二酸化炭素排出量削減	LPG使用量の削減	1. ストープ点火(冬季18℃以下)	※継続	工場1、2、3 (各G長)
		2. 昼食時の温暖日は、OFF励行	継続	
		1. 手洗い湯沸かし器の垂れ流し使用の厳禁	継続	
		2. 不使用時の点火禁止(必ず消す)	継続	
			継続	

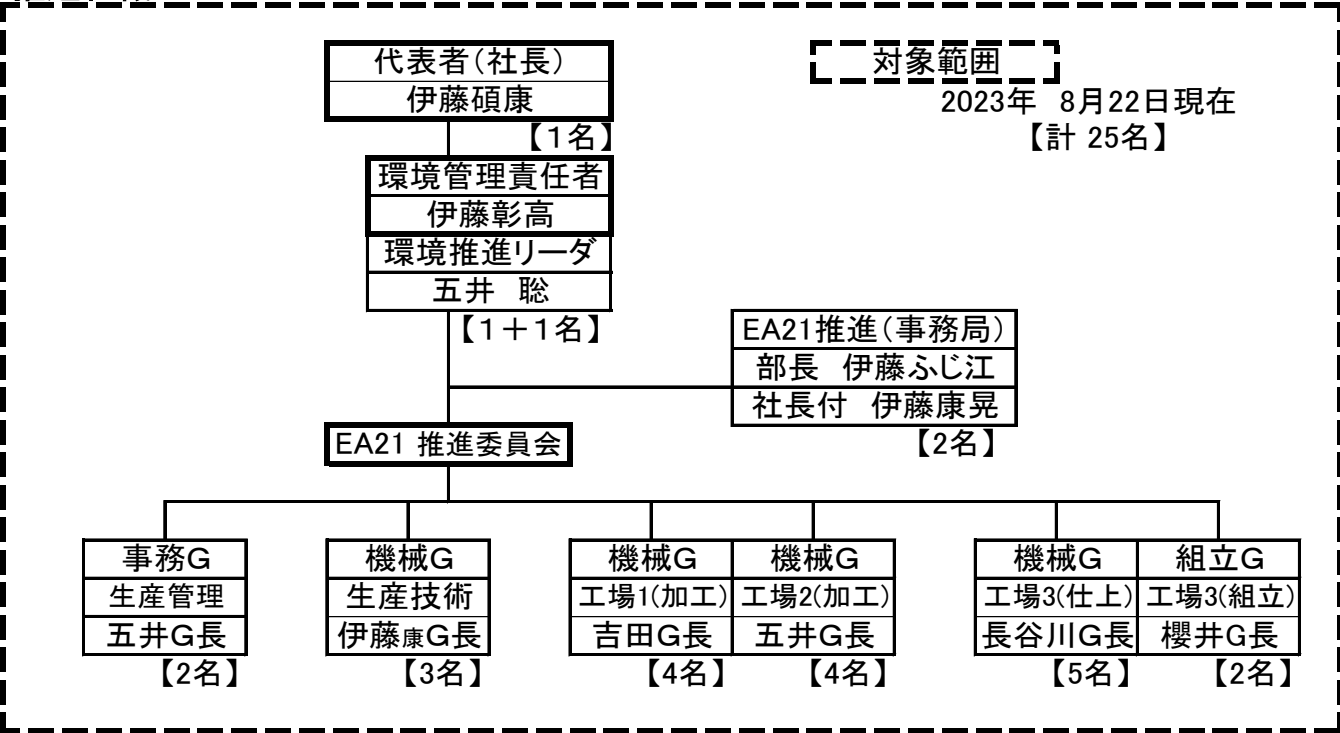
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減 (コピー用紙等)	1. コピー紙両面印刷の励行 2. 共有ネットワーク活用によるペーパーレス化推進 (全て産廃業者に一括委託済 ⇒ 実績記録を残し評価する)	継続 継続 ※ 検討	全担当 本社 事務局
	産業廃棄物排出量の削減	1. 5Sの推進(2Sの徹底によるムダの削減)計画的実行 2. 分別置場の整備維持と分別の徹底 3. 再資源化の推進(梱包材の再利用、等) 4. 品質不具合を無くし、廃材・廃工具、等を削減 5. 機械設備の油脂類、液漏れの防止活動 6. クーラント液、作動油の清浄化活動で交換頻度を削減	※ 継続 継続 継続 継続 継続 ※ 継続	全担当 工場1、2、3 (各G長)
	水使用量の適正管理	1. 節水掲示による節水励行 2. 設備の漏水点検 + 切削液の自動給水管理化 3. 使用量の監視・確認(本社)	継続 ※ 継続 継続	全担当 工場1、2 G長 本社
	化学物質使用量の適正管理	1. 油脂類採用時は原則PRTR非含有品を優先選定 2. 鋳物加工品の洗浄効率化によるシンナー液の削減 3. 油圧装置板金部品の不具合(再塗装)の撲滅推進 4. 洗浄装置更新による人に優しい洗浄液の採用化	継続 ※ 継続 継続 継続	工場1、2、3 (各G長) 組立G長 工場3 G長
	品質不良の削減	1. 上流(生産技術/管理)の業務改善による不具合因子の削減 2. 不具合発生時の三現主義の徹底&OJTの実施 3. 品質連絡会で、原因究明&再発防止の徹底及び指導を実施 4. 作業特性と人材の適正配置の推進	※ 継続 継続 継続 ※ 継続	本社 工場1、2、3 (品質責任者 &各リーダー)
	グリーン購入率の向上	1. 購入品の環境認定品の調査継続、採用品目の統制 2. 購入時は、原則環境認定品の優先採用	継続 継続	本社

注)実施事項※印: 重点実施事項

◎計画は通期にて実施

6. 環境経営計画に基づき実施した体制及び主な活動内容

1) 推進組織



2) 役割と責任・権限

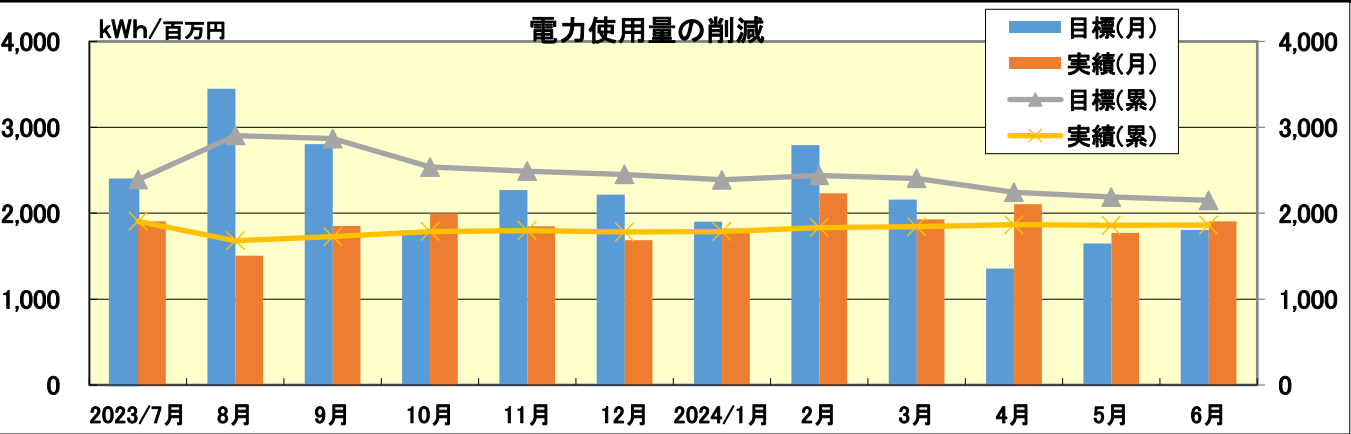
	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	・環境経営の統括責任者 ・経営資源(人員・設備・費用)の準備 ・環境経営方針の策定 ・環境管理責任者を任命 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認

環境管理責任者 ・環境推進リーダー (責任者の委託により 代行権限あり)	・環境経営システムの構築、実施、管理の責任者 ・環境経営目標・環境経営計画の承認 ・環境経営の管理状況(実施状況と結果)を代表者へ報告 ・全社員への周知、教育と訓練 ・環境経営レポートの作成責任者 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・教育・訓練実施または、部門長への指示と進捗管理
環境事務局 (EA21推進委員会)	・環境管理責任者の補佐 ・EA21推進委員会の定期開催とその事務局 ・環境負荷及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動のデータ収集と実績まとめ ・環境関連法規等取りまとめと遵守状況のチェック ・環境経営管理文書・記録の作成と保管 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長・管理職 (EA21推進委員)	・環境経営システムの実施(自部門内・・・以下同じ) ・従業員への環境方針の周知 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・手順書作成及び運用管理 ・緊急事態への対応のための手順書作成 ・教育・訓練実施、記録の作成 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境経営への取り組みの重要性を自覚 ・自分の役割を理解し、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

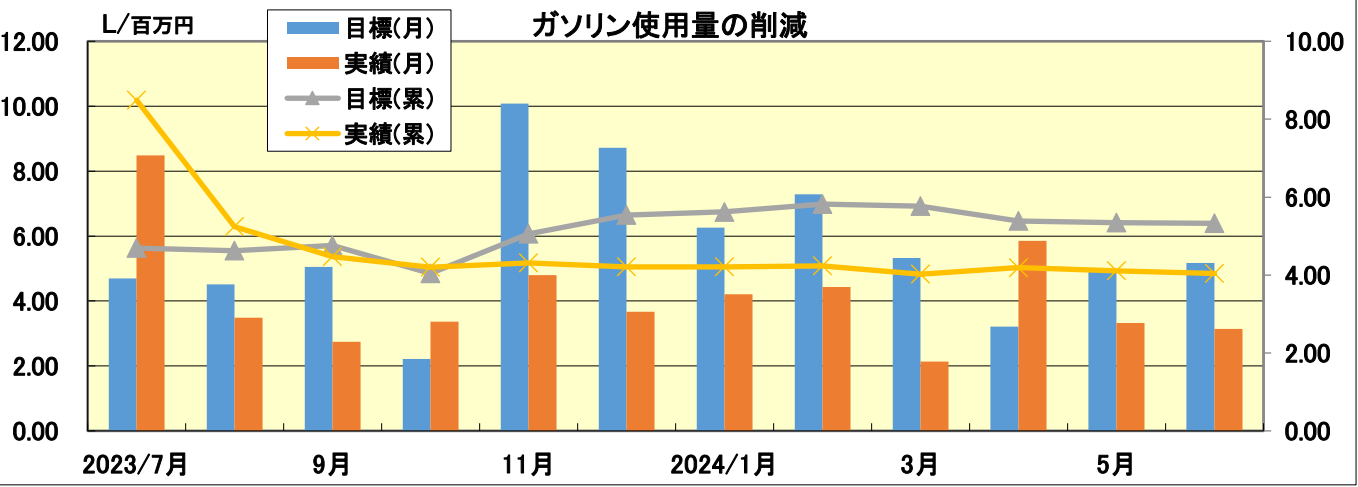
3) 主な活動実施状況

注1) * 印: 重点実施事項	実績	○: 達成度100%以上、△: 90%以上～100%未満、×: 90%未満
注2) 評価基準は右記。以下同じ	取組	○: 順調に実施中、△: 今一步の努力要、×: 実施不十分

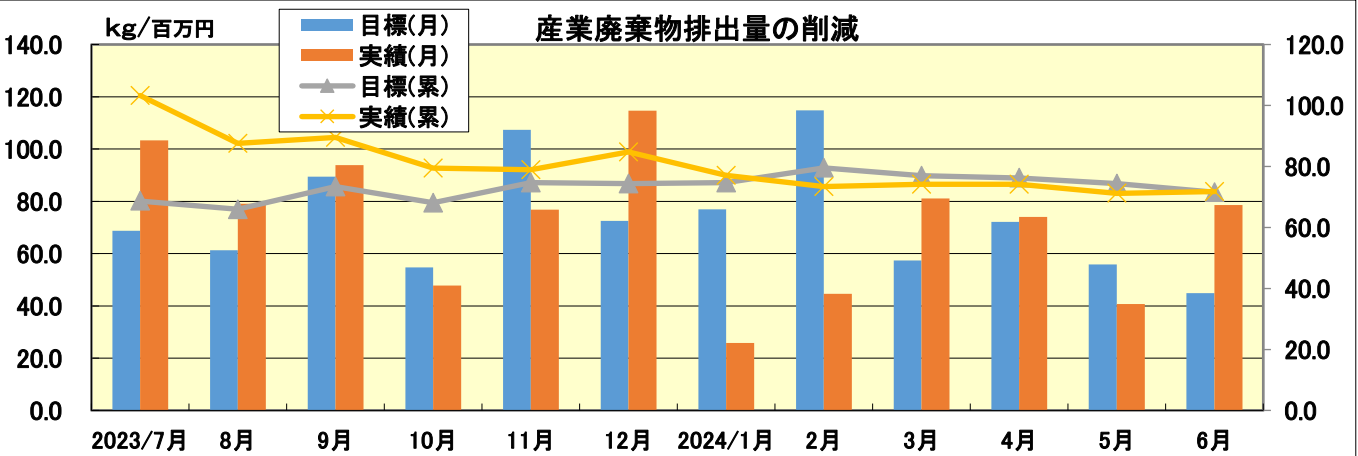
① 電力使用量の削減			環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因			環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組		
目標と実績			1. 以前より、夏季の電気使用量が削減できている。 2. 全社的に電気使用量の節約意識が結果に出た。			1. 電気料金の高騰があり、使用量が減少しても請求額は増えている。 2. 取組については、工場全体で達成できているので継続する。		
目 標	3.0	%削減						
実 績	2093.7	kWh/百万円						
達成度	115.5%							
実 績	1,113,618	kWh						
評 価	○							
当期の取組内容			評価	取組区分	次年度取組	【備考(活動事例、等)】		
1. 照明: 休憩時・不使用時消灯(全社)			△	継続	継続	1. 工場全体の空調から、作業場を空調する方法に機器を変更し、空調の方法を見直し使用量の削減に努めた。		
2. OA機器: 不使用時省エネモード、電源OFF(全社)			○	継続	継続			
3. 不稼働機械の電源OFF(工場)			○	※ 継続	継続			
4. 空調機器温度設定と励行(夏季: 28℃、冬季: 18℃)(全社)			○	※ 継続	継続			
5. 空調機器フィルターの定期清掃(工場: 月初/毎月、本社: 6月、12月)			○	継続	継続			
6. 不使用換気扇電源OFF(全社)			○	継続	継続			
7. 工場照明のLED化の維持管理			-	継続	完了			
8. 高効率圧縮機の優先稼働の実施			○	継続	継続			
9. 高効率圧縮機の供給圧低減(0.7⇒0.65Mpa) & I7-節約対策			△	※ 継続	継続			
10. 不具合による手直し、再製作のムダを削減			○	※ 継続	継続			



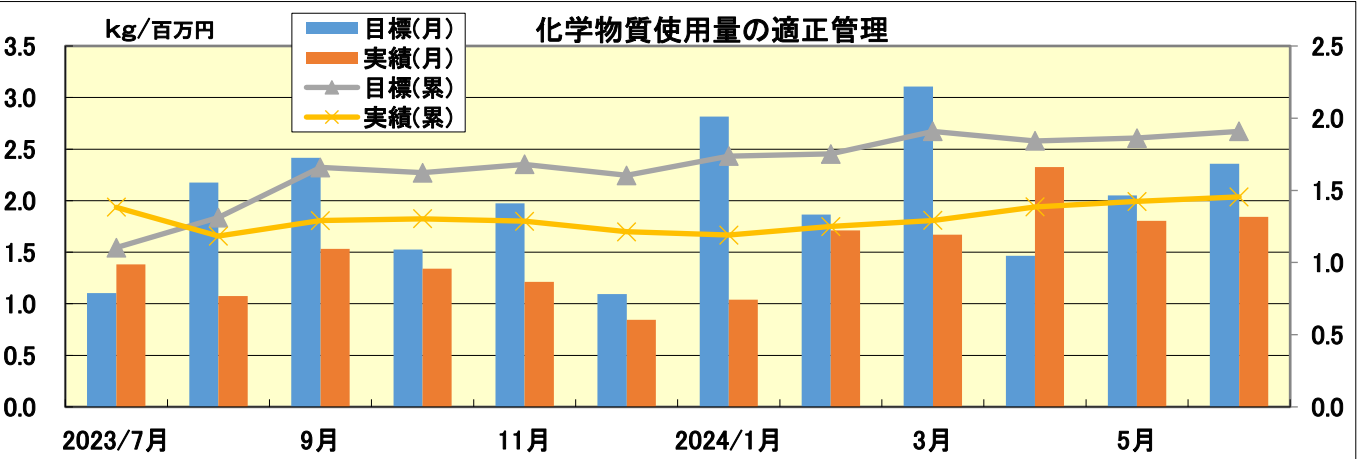
② ガソリン使用量の削減			環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因			環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組		
目標と実績			1. 半期ごとの全員朝礼時に啓蒙、徹底概ね 計画達成した。			1. 当期取組の継続実施＆維持。		
目 標	3.0	%削減						
	5.33	L/百万円						
実 績	4.04	L/百万円						
達成度	132.0%							
実 績	2347.6	L						
評 価	○							
当期の取組内容			評価	取組区分	次年度取組	【備考(活動事例、等)】		
1. エコドライブ10ステッカーの配布・励行(運転者)			○	継続	継続	1. 月次変動あるが、累計は大幅に達成。		
2. 運転日報(距離・給油)記録と燃費効率の管理(運転者)			△	継続	継続			
3. 遠方(100km以上)出張業務時の公共交通機関の活用			○	継続	継続			
4. 低燃費車への更新			-	中期	都度			



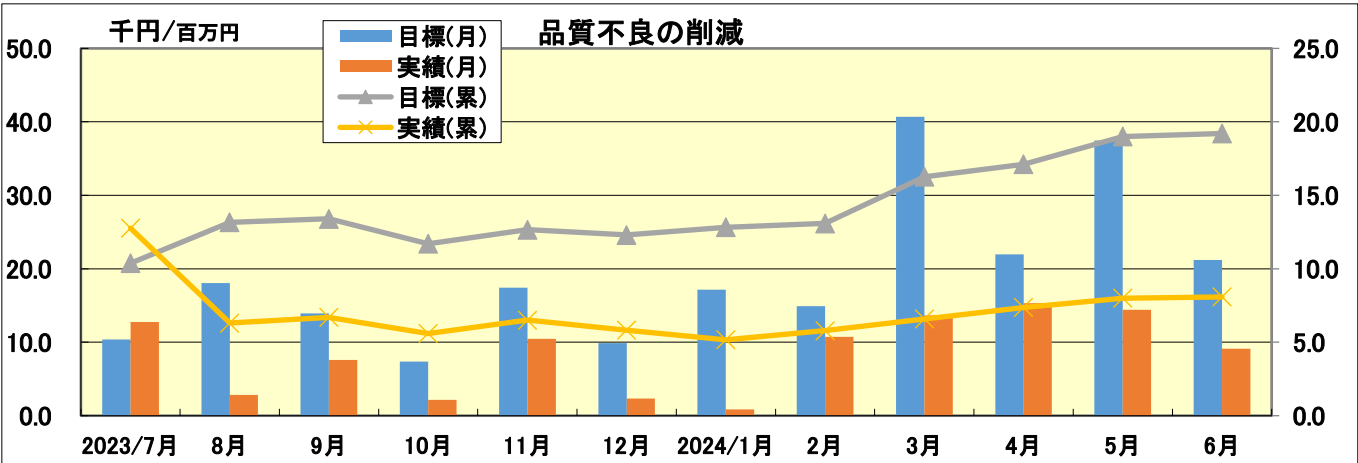
③ 産業廃棄物排出量の削減			環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因		環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組	
目標と実績			1. 新規設備据付スペース確保の為、以前より、工場内に保管してあった修理部品、予備品、在庫品を見直し、長期未使用品を廃棄した。		1. 当期取組の継続実施＆維持。 2. 5Sは特に2Sで無駄の排除。 3. 設備不具合の早期発見で交換部品を最小現にする取組の実施。	
目 標	3.0	%削減				
	71.6	kg/百万円				
実 績	71.7	kg/百万円				
達成度	99.8%					
実 績	41724.4	kg				
評 価	△					
当期の取組内容			評価	取組区分	次年度取組	【備考(活動事例、等)】
1. 5Sの推進(2Sの徹底によるムダの削減)計画的実行			△	※ 継続	継続	1. 新規設備導入の為、設置場所の確保が必要になり、未使用品の廃棄を実施したため、廃棄物排出量が増加した。
2. 分別置場の整備維持と分別の徹底			○	継続	継続	
3. 再資源化の推進(梱包材の再利用、等)			△	継続	継続	
4. 品質不具合を無くし、廃材・廃工具、等を削減			○	継続	継続	
5. 機械設備の油脂類、液漏れの防止活動			△	継続	継続	
6. クーラント液、作動油の清浄化活動で交換頻度を削減			○	※ 継続	継続	



④ 化学物質使用量の適正管理			環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因			環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組		
目標と実績			1. シンナー洗浄が必要な製品の注文が増 加し使用量が増加したが、総量は目標達 成した。			1. 当期取組の継続実施 & 維持。 2. シンナーの代替品を模索。		
目 標	3.0	%削減						
	1.91	kg/百万円						
実 績	1.45	kg/百万円						
達成度	131.2%							
実 績	846.12	kg						
評 価	○							
当期の取組内容			評価	取組区分	次年度取組	【備考(活動事例、等)】		
1. 油脂類採用時は原則PRTR非含有品を優先選定			○	継続	継続	1. 客先要求品質を守りつつ、使用量を削減 を継続推進する。		
2. 鋳物加工品の洗浄効率化によるシンナー液の削減			△	※ 継続	継続			
3. 油圧装置板金部品の不具合(再塗装)の撲滅推進			△	継続	継続			
4. 洗浄装置更新による人に優しい洗浄液の採用化			—	継続	保留			



⑤ 品質不良の削減			環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因			環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組		
目標と実績			1. スキルに見合った作業分担の効果が あり、不具合発生率が低減した。			1. ポカミス防止・再発防止の継続 推進。		
目 標	40.0	%削減						
	19.21	千円/百万円						
実 績	8.09	千円/百万円						
達成度	237.4%							
実 績	4705.30	千円						
評 価	○							
当期の取組内容			評価	取組区分	次年度取組	【備考(活動事例、等)】		
1. 上流(生産技術/管理)の業務改善による不具合因子の削減			△	※ 継続	継続	1. ストップ＆ゴーの継続推進。 2. OJTによるスキルアップの継続推進。		
2. 不具合発生時の三現主義の徹底&OJTの実施			○	継続	継続			
3. 品質連絡会で、原因究明＆再発防止の徹底及び指導を実施			○	継続	継続			
4. 作業特性と人材の適正配置の推進			○	※ 継続	継続			



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

1) 当期の目標と実績

評価基準：○：達成度100%以上、△：90%以上～100%未満、×：90%未満

項目		単位	基準値 (2020/7月～ 2021/6月)	目標 実績		達成度 (%)	評価
				2023年度 (2023/7月～2024/6月)			
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	(削減率%)	—	3%	—	115.5%	○
		kWh/百万円	2,158.5	2,093.7	1,861.2		
	ガソリン使用量の削減	(削減率%)	—	3%	—	132.0%	○
		ℓ/百万円	5.49	5.33	4.04		
	軽油使用量の削減	(削減率%)	—	3%	—	149.2%	○
		ℓ/百万円	0.708	0.687	0.460		
	灯油使用量の削減	(削減率%)	—	3%	—	93.6%	△
		ℓ	2,892	2,805	2,996		
	LPGガス使用量の削減	(削減率%)	—	3%	—	106.7%	○
		kg	107.2	104.0	97.5		
【二酸化炭素排出量】	kg-CO2	420,841	—	428,218	—	—	
	(削減率%)	—	(1%)	—	114.1%	○	
	kg-CO2/百万円	848.8	840.3	736.3			
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減 (コピー用紙)	(削減率%)	—	3%	—	91.1%	△
		購入枚数	40,500	39,285	44,000.0		
	産業廃棄物排出量の削減	(削減率%)	—	3%	—	99.8%	△
		kg/百万円	73.8	71.6	71.7		
水使用量の削減	—	—	2%	—	86.8%	×	
	m³/百万円	1.199	1.175	1.353			
化学物質使用の適正管理	(削減率%)	—	3%	—	131.2%	○	
	kg/百万円	1.97	1.91	1.45			
品質不良の削減	(削減率%)	—	40%	—	237.4%	○	
	損金千円/百万円	32.0	19.2	8.1			
グリーン購入率の向上	(向上率%)	—	15%	—	63.8%	×	
	購入率%	36.0%	41.4%	26.4%			

注) 二酸化炭素排出係数は、中部電力(株) 0.379kg-CO₂(2020年度調整後)を使用しています。

2) 取組結果の評価と次年度の取組

環境目標項目	達成度 評価	環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因	環境活動計画への追加・ 変更と次年度の取組
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	115.5%	1. 電気料金の高騰があり、使用量が減少しても請求額は増えている。 2. 取組については、工場全体で達成できているので継続する。
	○	1. 以前より、夏季の電気使用量が削減できている。 2. 全社的に電気使用量の節約意識が結果に出た。	
	ガソリン使用量の削減	132.0%	1. 当期取組の継続実施&維持。
	○	1. 半期ごとの全員朝礼時に啓蒙、徹底概ね計画達成した。	
	軽油使用量の削減	149.2%	1. 当期取組の継続実施&維持。
	○	1. 半期ごとの全員朝礼時に啓蒙、徹底概ね計画達成した。	
	灯油使用量の削減	93.6%	1. 暖房機器の効率を見直し、機器変更を検討。
	△	1. 節約、削減を優先し、作業効率低下の影響が懸念され、各工場に合わせた空調方法を模索。	
	LPGガス使用量の削減	106.7%	1. 当期取組の継続実施&維持。
	○	1. 冬季の機械清掃日程を調整し、ガス使用量の削減を実施した。	
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減	91.1%	1. 両面印刷の利用を継続。 2. 印刷物のデザイン変更による、使用枚数の削減。
	△	1. 毎月の月次朝礼時に啓蒙活動を実施し意識の徹底を図る。	
産業廃棄物排出量の削減	99.8%	1. 新規設備据付スペース確保の為、以前より、工場内に保管してあった修理部品、予備品、在庫品を見直し、長期未使用品を廃棄した。	1. 当期取組の継続実施&維持。 2. 5Sは特に2Sで無駄の排除。 3. 設備不具合の早期発見で交換部品を最小現にする取組の実施。
	△		

水使用量の削減	86.8%	1. クーラント液清浄化活動を継続。 2. 来期は、設備増加による使用量を考慮し、目標値を変更する。	1. 設備増に伴う使用量を注視。 2. クーラント液の清浄化による液交換頻度の削減継続。
	×		
化学物質使用の適正管理	131.2%	1. シンナー洗浄が必要な製品の注文が増加し使用量が増加したが、総量は目標達成した。	1. 当期取組の継続実施&維持。 2. シンナーの代替品を模索。
	○		
品質不良の削減	237.4%	1. スキルに見合った作業分担の効果があり、不具合発生率が低減した。	1. ポカミス防止・再発防止の継続推進。
	○		
グリーン購入率の向上	63.8%	1. グリーン調達と品目統制を徹底。 (新規採用品のチェックを重点実施)	1. 事務用品以外の用品もグリーン商品採用を継続する。
	×		

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

環境関連法規制等チェック表により確認の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
また、行政機関および近隣からの苦情や違反の指摘・指導もなく、訴訟等も過去12年間ありません。

当社が、法的規制を受ける環境関連法等と遵守すべき規制の内容の確認結果は、次表のとおりです。

環境関連法等の名称	規制事項等	主な規制の内容	遵守状況
騒音規制法	騒音発生施設	騒音発生施設の届出 規制基準の遵守	遵守
振動規制法	振動発生施設	振動発生施設の届出 規制基準の遵守	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物 産業廃棄物	資格保有業者への委託、適正保管、掲示板設置、 産業廃棄物管理票(マニフェスト)の作成、5年間 保管、管理表交付状況等の報告	遵守
水質汚濁防止法	特定施設 貯油施設等	特定施設等設置の届出、排水基準の遵守、 事故時の措置	該当なし
下水道法	特定施設の下水、 50㎡/日以上以上の汚水	規制基準の遵守 事故時の措置	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	取扱事業者	排出量の把握	遵守
消防法	火災の予防等	危険物の管理、少量危険物の管理	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	業務用エアコン	エアコンの適切な場所への設置 定期点検と記録簿の保管	遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律	パソコン、小型二次 電池使用機器	長期間使用 廃棄時再資源化	遵守
特定家庭用機器再商品化法	エアコン、テレビ 冷蔵庫、洗濯機	廃棄時再商品化等するものへの引き渡し リサイクル料金と収集・運搬料の支払い	該当なし
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律	使用済み小型電子 機器	分別排出と再資源化を適正に実施する者への 引渡し	遵守
使用済自動車の再資源化等に関する法律	使用済み自動車	引取り業者への引き渡し リサイクル費用の預託	遵守
愛知県 県民の生活環境保全に関する条例	原動機の停止指導 の周知	アイドリングストップの励行 従業員駐車場等にアイドリングストップの掲示	遵守
取引先グリーン 調達ガイドライン		環境経営システムの構築 環境負荷物質の削減管理	遵守

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

総合評価と見直し(代表者)		作成者	伊藤 碩康
		作成月日	2024年11月12日
項 目		報告事項	指示事項
1	法的要求事項及びその他の要求事項の遵守の評価の結果	・官公庁への変更届等は一切無し。 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出済。 ・作業環境(有機溶剤等)測定を実施。	・維持、管理と改善を継続のこと。 ・作業環境測定は、適正に継続実施をすること。
2	苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション	・過去12年間連続して、関係当局からの指摘や近隣住民、企業からの訴訟及び苦情は無かった。	・継続して細心の注意を払って、事業活動を実施すること。
3	当社の環境パフォーマンス	・エネルギー、二酸化炭素削減に向けた電力使用量の低減活動。 ・産廃削減に向けたクーラント清浄化による廃液削減と品質不良低減活動。	・働き方改革とリンクした省エネ取組みのネタ探し&地道な改善を継続のこと。 ・不具合は真因追究と再発防止の徹底&対策の仕組み化を継続し、顕在化にも要注意。
4	目標を達成している程度	・売上高による原単位管理項目は、概ね目標達成、品質不具合も、目標達成した。 ・新規設備導入に伴い、クーラント液の補充量が増加したため、水道使用量も増加した。	・不具合連絡方法が定着し、顕在化が進み原因究明につながった、再発防止の取組を継続。 ・OJTによるスキルアップの継続推進。 ・水道使用量が、設備増によるものか注視。
5	是正措置及び予防処置の状況	・特になし	・特になし
6	前回までの代表者による見直し結果に対するフォローアップ	・前年実績、事業内容の変化を想定し改善目標・計画の再設定は実施済み。 ・売上高による原単位管理が必要な項目とそうで無い項目に層別し、計画を継続策定済み。	・本年度は、概ね良好な結果となった、改善目標の実施状況に注視。 ・品質不具合は目標達成したが、情報の顕在化と役割分担には要注意。
7	環境関連事項法的及びその他の要求事項の進展を含む、変化している周囲の状況	・全館空調から部分空調に変更、小型空調機を作業場所に配置、作業環境の改善を図る。 ・新規増設予定の洗浄装置の製作は新工場移転まで延期、仕様の再検討が必要。	・電力使用量の削減に注力する、夏場の廃熱方法の改善、冬場の廃熱利用方法を模索。 ・化学物質削減、省エネなど、諸般の状況、改善事例および問題点を分析し、新たな改善テーマを継続して模索する。
8	改善のための提案	・機械設備の保全活動の強化。 ・ソーラーパネルの設置を検討。	・機械設備修繕費が増加傾向であり、日常点検・清掃などメンテナンスを強化する。
9	その他、代表者が指示する事項及び管理責任者が必要と判断した事項	・品質不良の撲滅推進の継続&顕在化。 ・働き方改革による生産性の向上。	・徹底したボカミス、再発防止に向けた、仕組みとしての改善を継続。 ・設備の夜間稼働率の向上取組を継続。 ・新工場移転に向けた省エネ課題の洗い出し。

項 目	変更の必要性	個別指示事項
環境方針	・経営方針に反映済み。	・改善効果を利益や工数縮減に結びつけること。
環境目標	・事業規模、売上との整合性は原単位管理を実施済み。	・売上高による原単位管理を継続のこと
環境活動計画及び環境経営システム	・現状実績を評価し、成果有りは継続、不十分は改善。	・更に、新規課題の創出と実行に期待。
総合的な指示事項	・エコアクション21の2017年度版で把握した問題点や成果が出ていない項目を全員参加で改善を実施。	

2024年 11月 11日 評価
株式会社 愛康
代表取締役 伊藤 碩康

以上